

自動運転タクシーについて

newmo



説明資料

newmo株式会社

会社概要

“利用者視点に立ったサステナブルな地域交通”の実現を目指し、
タクシー事業を主軸にモビリティサービスを展開しています

社名	newmo株式会社
代表	青柳 直樹
設立	2024年1月4日
所在地	【大阪オフィス】 大阪府守口市八雲東町1丁目8番2号 【東京オフィス】 東京都港区虎ノ門3丁目5番1号虎ノ門37森ビル 13階
従業員数	1,559名 ※2025年5月末時点
主要子会社	株式会社岸交 株式会社未来都 堺相互タクシー株式会社 など



創業者について

CEOの青柳は8年前から交通分野での起業を模索。
2024年1月にnewmoを創業し、
タクシードライバーとしてもハンドルを握っています



✔ 普通二種免許取得 (2017年)

✔ 東京都地理試験合格 (2017年3月)

✔ 運行管理者試験合格 (2024年4月)

✔ 大阪タクシーセンター初任運転者研修修了 (2024年3月)

newmoグループのタクシー事業

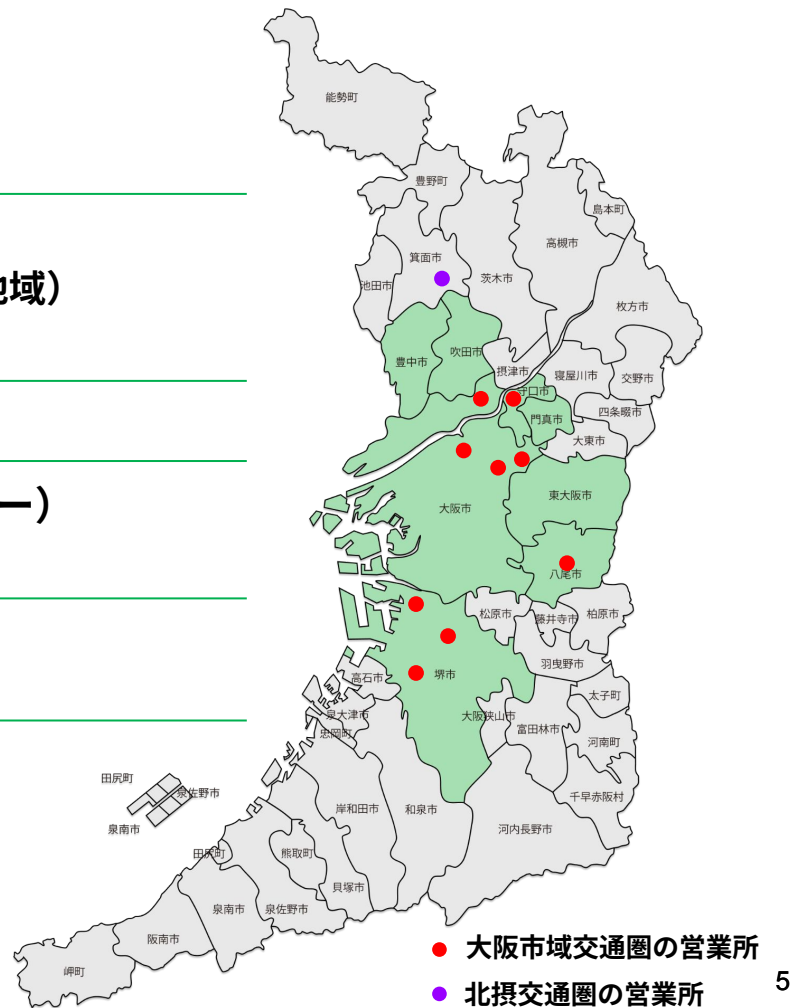
大阪府内で展開するタクシー事業者3社がnewmoグループへ参画
IT技術を活用した経営の効率化、人材採用などの投資を推進



会社名	岸交	未来都	堺相互
参画時期	2024年3月	2024年7月	2025年4月
所在地	大阪府堺市	大阪府守口市	大阪府堺市
従業員数	52名	1,223名	171名

[参考]大阪におけるタクシー営業所

営業所数	大阪府内10営業所 うち9営業所：大阪市域交通圏（準特定地域） うち1営業所：北摂交通圏（準特定地域）
乗務員数	約1,300名 ※2025年5月
事業内容	一般乗用旅客自動車運送事業（タクシー） 自動車整備事業ほか
導入配車アプリ	newmo、GO、S.RIDE、UBER



自動運転タクシーの取組について

自動運転タクシーに係る動向

- 米国や中国で技術発展による実用化が急激に進む
- 米サンフランシスコにおいて、Waymoの自動運転タクシーは20ヶ月でシェアを0パーセントから27パーセントへ急拡大

米国・中国のサービス展開例



- ・サンフランシスコ
- ・フェニックス
- ・ロサンゼルス
- ・オースティン
- ・アトランタ

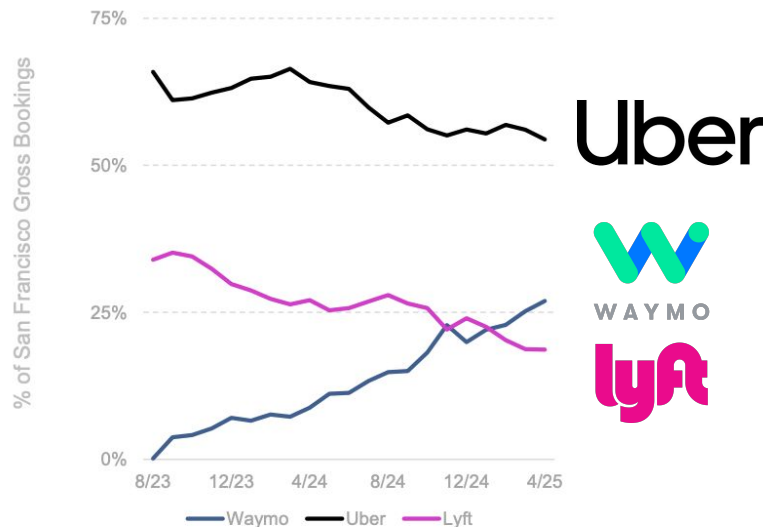


- ・北京
- ・上海
- ・広州
- ・深圳



サンフランシスコにおける配車予約市場シェア

Estimated Market Share (Gross Bookings) – 8/23-4/25,
San Francisco Operating Zone, per YipitData



自動運転タクシーの安全性と社会需要の動向

- サンフランシスコでは300台以上の自動運転タクシーが走行し、市民の理解と需要が進んでいる

近郊の車庫から数百台が常時運行



周囲の状況を察知し、画面で乗客にも通知



自動運転タクシーの実用化に向けては、都市部での学習が鍵

WaymoはSFでは一般開放まで3年かかったが、LAではわずか8ヶ月で一般開放

サンフランシスコでの展開

2021年8月: 限定ユーザー向けに商用テスト開始
(Safety Driverが運転席に乗車)

2023年8月: 完全無人の自動運転タクシーサービスの商業運行を開始。

2024年6月: 一般向けに完全開放。アプリをダウンロードすれば誰でも利用可能に。

2024年8月: サービスエリアを近郊まで拡大。
(2024年半ばには市内で300台が稼働との報道)

2025年2月: 市内全域を対象とし、天候を問わず24時間運行可能に

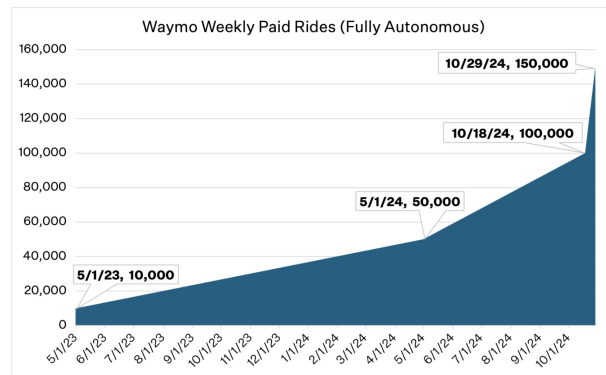
→一般開放まで約3年

ロサンゼルスでの展開

2024年3月: テスト運用を開始

2024年11月: 一般向けに完全無人の自動運転タクシーサービスを正式に開始

→一般開放まで8ヶ月



一般向け開放後
急激な成長
(SFの利用回数)

自動運転タクシーの事業化に向けて

大阪府内でのタクシー事業基盤や、パートナー企業との連携を通じ、段階的に推進
将来的な全国展開を目指す

タクシー事業基盤の活用

- 許認可事業であるタクシー事業免許を保有し、早期の市場投入が可能
- 配車アプリ「newmo（ニューモ）」で利用客とのデジタル接点も保有
- toCサービス領域で経験豊富な経営・開発メンバー



都市部で学習を加速後 全国の地方展開へ

- 既存のタクシー法人・営業所（堺市・大阪市など）を活用
- 都市部で集中的に台数を投入することで、学習スピードを加速（Waymoの例）
- 都市部で自動運転タクシーの完成度を高めたうえで、地方を含む各地へ展開

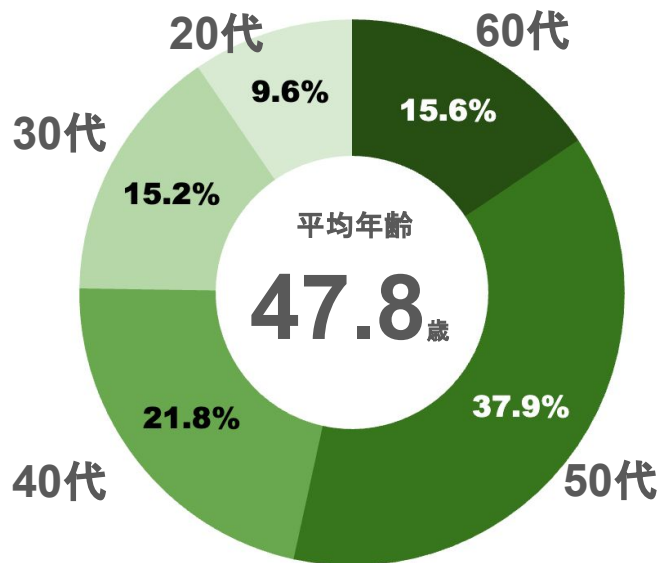
低コストでの車両開発

- 既存のEV車両に、低価格化が進むセンサー・カメラを組み合わせた車両開発
- 将来的にはOEMメーカーと連携し国産化を進める

自動運転タクシーによるドライバー人材不足への対応

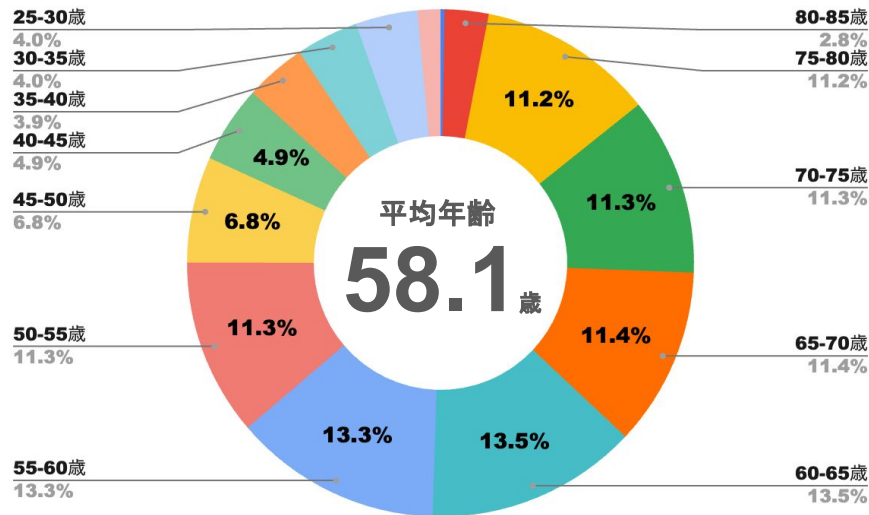
newmoグループでは採用に投資し若年層の採用も一定成功するも、
将来的な人口減・高齢化の影響は避けられず、人手不足への対応が必要

newmoグループ（未来都）乗務員の年齢構成



参考: 全国のタクシー乗務員の平均年齢は 60.2歳
※厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より

大阪府A*地域 登録運転者数（法人）



資料: 公益財団法人 大阪タクシーセンター調べ

*大阪府A地域=大阪市、堺市(美原区は除く)、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、守口市、茨木市、八尾市、和泉市、箕面市、門真市、摂津市、高市氏、東大阪市、三島郡及び泉北郡の区域(三島郡: 島本町/泉北郡: 忠岡町)

堺市における自動運転タクシーの取組内容

自動運転タクシーの開発に向けて、
堺市内の適切なエリアを実証フィールドとして、走行テストを実施させていただきたい

堺市が実証フィールドとして適する理由

- 都市部近郊で、臨海部から市街地まで多様な走行環境が存在しており、学習に適している
- newmoグループのタクシー営業所が市内に3箇所あり、車庫や人員、トラブル時の迅速な対応など事業基盤が活用可能
- 将来的なドライバー不足が見込まれ、省人化への対応が必要

走行テストについて

- newmoが開発する自動運転タクシー車両を用い、走行テストを実施
- 走行難易度の低いエリアや時間帯（車両数・歩行者数・歩車分離・直線・道幅等から判断）からスタート
 - 当初は交通量が少ない臨海部を想定
- 走行時はセーフティードライバー・セーフティオペレーターが乗車

留意点

- 既存の交通事業者、物流事業者等に影響を及ぼさない時間帯やエリアから実証を開始
- 当初の台数規模は少数（1台～数台）